

# ボールパーク整備検討会議 報告書 (案)

---

令和 7 年 3 月 2 1 日  
ボールパーク整備検討会議

---

# 目次

1. はじめに	2
2. コンセプト	3
(1) 県民が思い思いに楽しめる	4
(2) 野球を楽しめる	5
(3) 多様なスポーツを楽しめる	11
(4) 普段づかいを楽しめる	14
(5) 青森らしさを楽しめる	18
3. 持続可能な運営について	21
4. 整備場所の考え方	22
資料編	23

# 1 はじめに

本会議では、青森県によるボールパーク整備に係る基本計画の策定に向けて、**「野球場を核として賑わいや交流を創出するボールパーク」**について検討を進めてきました。



検討の中では、野球場として備えるべき機能や施設規模などとともに、ボールパークとしての望ましい役割・機能などに関する議論を行い、ボールパーク整備に当たっての羅針盤としてコンセプトを取りまとめました。本会議での議論を踏まえ、県民の皆様に愛され、親しまれるボールパークの整備が実現することを期待するものです。

令和7年 月 日  
ボールパーク整備検討会議  
委員長 沼田 郷

## 2 コンセプト

# 『季節に応じて日常的に集い楽しめるボールパーク』

コンセプトを構成する5つの視点

(1) 県民が思い思いに楽しめる

(2) 野球を楽しめる

(3) 多様なスポーツを楽しめる

(4) 普段づかいを楽しめる

(5) 青森らしさを楽しめる

# (1) 県民が思い思いに楽しめる

## ①誰もが楽しめる

- 野球をする人、野球を観る人、野球以外のスポーツをする人、運動する人、ゆっくり過ごしたい人など、それぞれの目的を持つ人々が、自由に集まり、楽しめる環境を整備
- 配慮が必要な方にやさしい施設の整備

## ②どの世代も安心して快適に利用できる

- 若者や子育て世代とそのこどもたち、ミドル・シニア世代など、どの世代にとっても安心して快適に利用できる環境を整備

## (2) 野球を楽しめる

### 【野球をする】

#### ①選手・関係者が利用しやすい

- 公認野球規則に則り、プロ野球公式戦にも対応できるグラウンドの整備
- 高稼働率を実現可能にする人工芝グラウンドの整備
- ナイトゲームも可能な照明の整備
- どこからでも見やすい大型映像装置の設置
- イベントや用途に応じて柔軟な使い方が可能な諸室の配置
- 施設の予約システムを導入するなど、関係者が利用しやすい環境の整備



参考イメージ タマホーム スタジアム筑後  
【青森県撮影】

## (2) 野球を楽しめる

- 収容人数は既存同等の15,000～20,000席とする
- 座席数は必要に応じて増やすことができるよう整備を検討

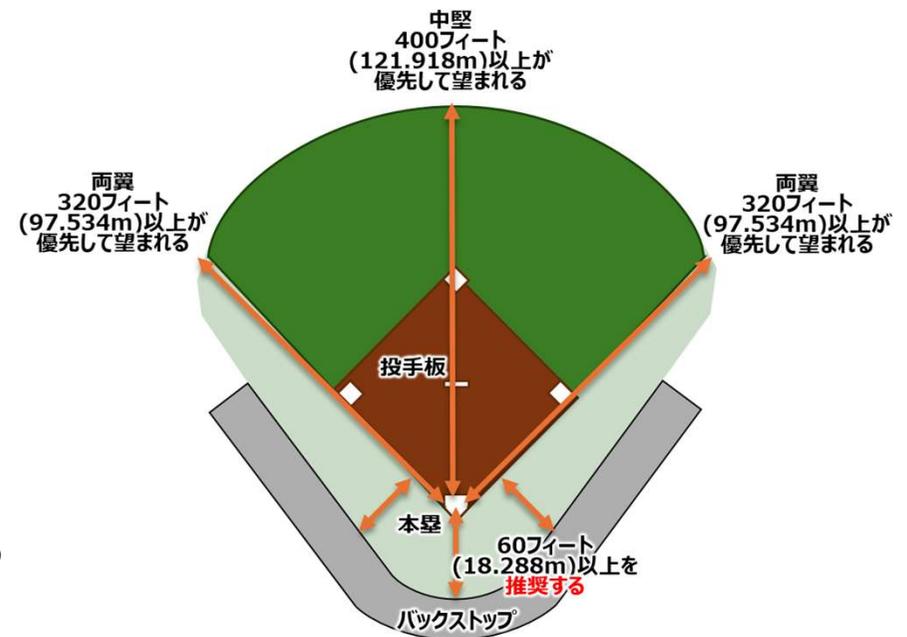
### ■東北6県 県営野球場の施設概要

球場名	県人口 (R6.1.1) (千人)	建設年	収容人数全体 (人)
青森県営野球場	1,236	1967	21,016
こまちスタジアム	965	2003	25,000
きたぎんボールパーク	1,228	2023	20,000
楽天モバイルパーク宮城	2,301	1950	30,508
ヤマリョースタジアム山形	1,067	1980	25,000
福島県営あづま球場	1,847	1986	30,000



参考事例  
はるか夢球場  
(収容人数15,050人での  
楽天公式戦)  
【受託者撮影】

### ■公認野球規則による競技場サイズ

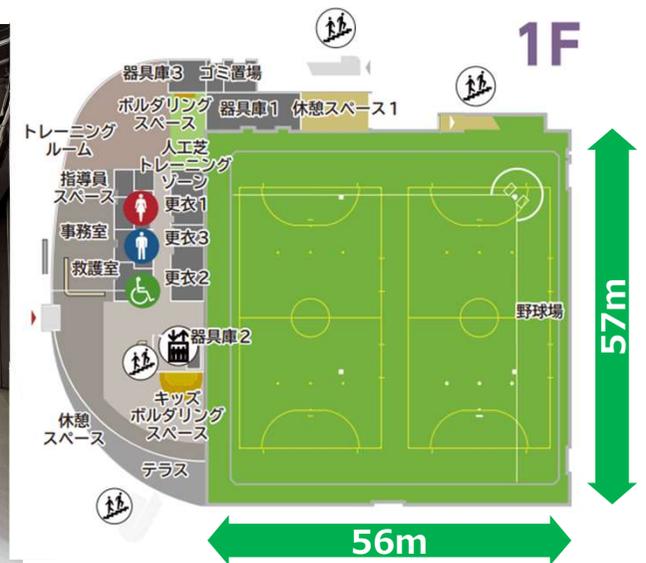
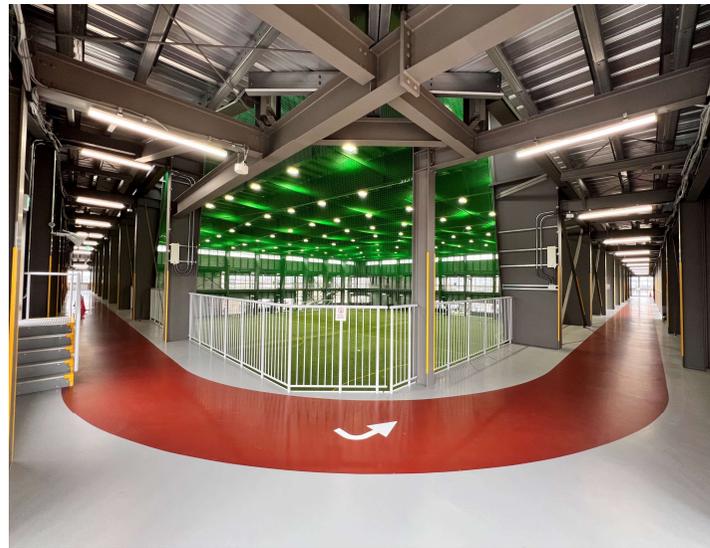


## (2) 野球を楽しめる

### 【野球をする】

#### ②競技力向上につながら、天候に左右されずに練習できる

- 多目的に利用可能な人工芝の屋内練習場を、球場に隣接した施設として一体的に整備
- 測定器や分析機器などを活用した練習環境の整備



参考イメージ きたぎんボールパーク（屋内練習場）【左・中央：受託者撮影 右：きたぎんボールパークパンフレット】

## (2) 野球を楽しめる

### 【野球を見る】

#### ③見やすく応援しやすい

- フィールド近くの臨場感あふれる席、応援が選手に伝わる環境など、迫力と臨場感を高める観戦環境の整備
- テラスシート、ボックスシートの配置、オープンコンコースの設定など、多様な観戦環境の整備



参考イメージ 長崎スタジアムシティ（オープンコンコース）【受託者撮影】



参考イメージ はるか夢球場（楽天公式戦での外野の芝生スタンド）

## (2) 野球を楽しめる

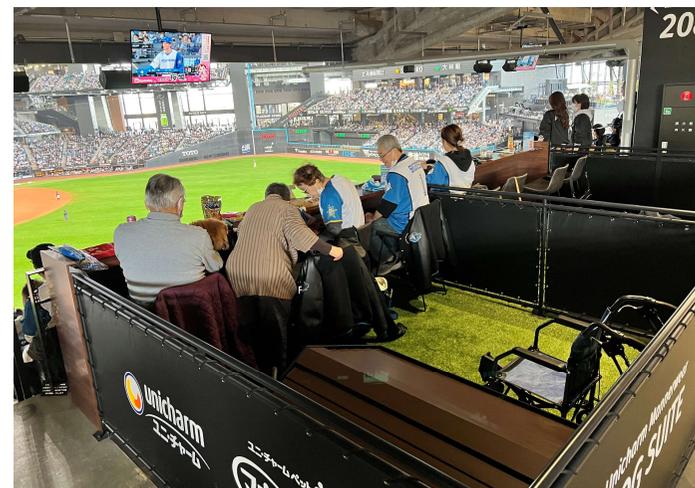
### 【野球を見る】

#### ④安全・快適に利用できる

- 夏季の高温や強い日差しを考慮した観戦環境の整備
- 障がい者や高齢者、女性、こども連れなど多様な人たちが過ごしやすい環境の整備
- キッズスペースや授乳室からも「ながら観戦」できる環境の整備



参考イメージ 長崎スタジアムシティ  
(コンコースのテーブル席で、車いす使用者やこどもも揃って観戦可能)  
【受託者撮影】



参考イメージ 北海道ボールパークFビレッジ  
(愛犬も家族と一緒に時間を過ごすドッグスイート)  
【受託者撮影】

## (2) 野球を楽しめる

### 【野球に親しむ】

#### ⑤ こどもたちが気軽に野球に親しめる

- 野球に興味を持つ前のこどもたちが、気軽にボールに触れて遊べる環境の整備
- 野球に興味を持ったこどもたちが、継続して野球を楽しめる環境の整備



参考イメージ（野球教室）

【写真提供：福島レッドホープス】

## (3) 多様なスポーツを楽しめる

### ① 野球以外のスポーツや運動もできる

- 人工芝の運動場、多目的な芝生広場など多様なスポーツを楽しめるスペースの配置
- ボルダリング、ストリートバスケットコート、ランニング・ウォーキングコース等の配置
- スポーツ教室や健康指導等が充実し、継続的に健康づくりに取り組める環境の整備



参考イメージ サンガスタジアム by KYOCERA (併設のボルダリング施設)  
【受託者撮影】



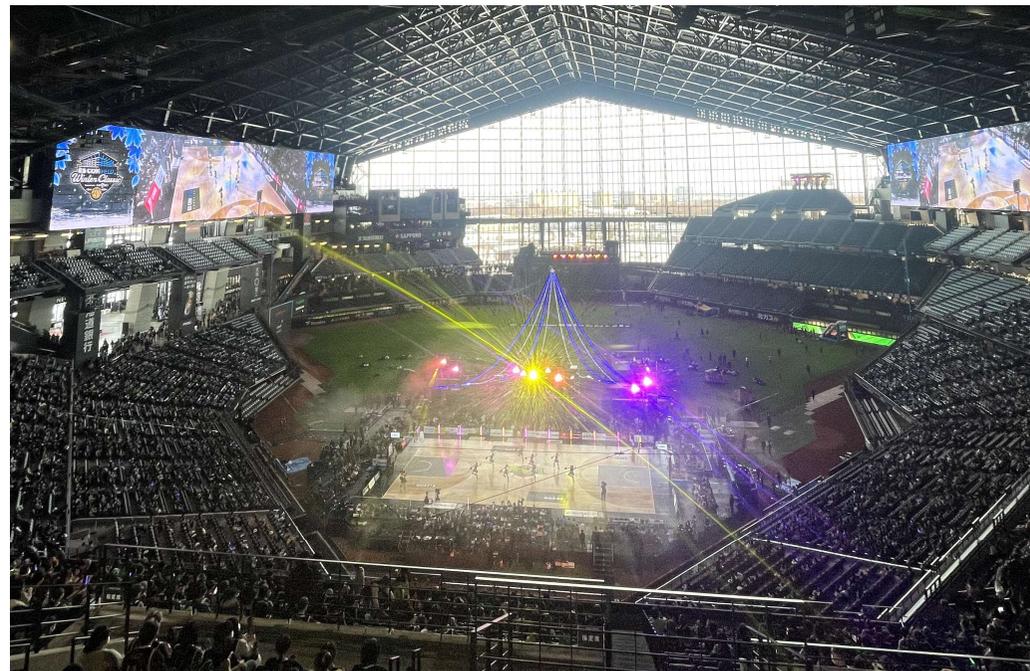
参考イメージ：オープンハウスアリーナ太田 (併設のバスケットコート)  
【受託者撮影】

### (3) 多様なスポーツを楽しむ

- 野球以外のスポーツの試合が実施可能なフィールドの整備



参考イメージ LAS VEGAS BALLPARK (サッカー試合開催)  
【写真提供 : Courtesy Las Vegas Aviators/Las Vegas Ballpark】



参考イメージ エスコンフィールドHOKKAIDO (Bリーグ公式戦開催)  
【写真提供 : レバンガ北海道】

## (3) 多様なスポーツを楽しめる

### ②季節に応じて楽しむ

- 雪を使った冬季のイベント、アクティビティで活用できる施設として整備



参考事例 はるか夢球場 冬の球場アート  
【画像提供：公益財団法人弘前市スポーツ協会】



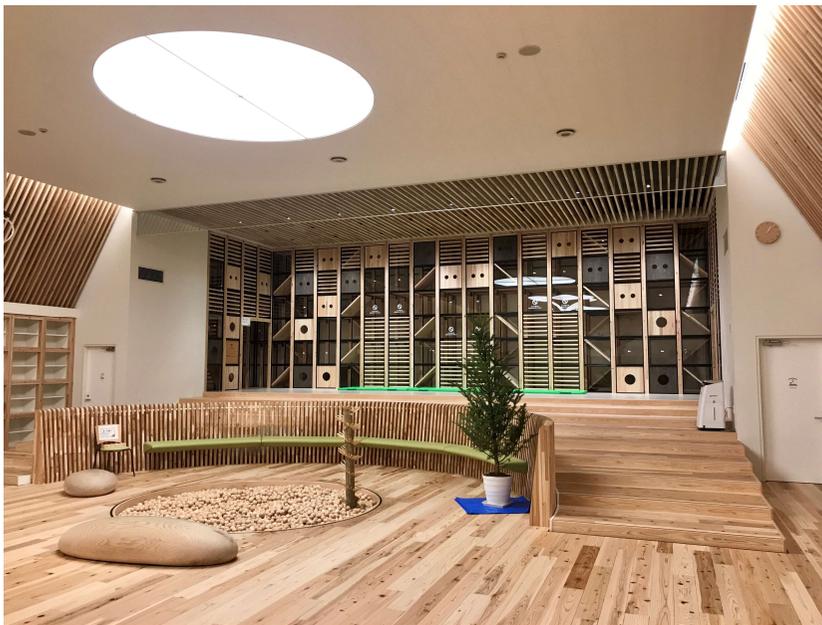
参考事例 北海道ボールパークFビレッジ  
(冬期の積雪環境を活かした様々なイベントやアクティビティの実施)  
【受託者撮影】



## (4) 普段づかいを楽しめる

### ① 小さな子どもも楽しめる

- 日常的に小さな子どもたちが集えるスペース（屋内遊戯場など体を動かせる場所）の整備



参考イメージ 高島町屋内遊戯場「もっくる」  
(町産木材をふんだんに使用し、感性や創造性を育む木育施設)  
【受託者撮影】



参考イメージ サンガスタジアム  
(子ども連れが日常的に利用できるフードコート)  
【受託者撮影】

## (4) 普段づかいを楽しめる

### ②いつでも楽しめる

- 中高生が勉強しながら過ごせる放課後の居場所・お年寄りも通うのが楽しみになるカルチャースクールなど、平日も多様な世代が利用できるスペースの整備



参考イメージ 長崎スタジアムシティ

(常時開放のオープンコンコースにより、ピッチを見ながら飲食や勉強・リモートワークなど思い思いの過ごし方が可能)

【受託者撮影】

## (4) 普段づかいを楽しめる

### ③ イベントやライブを楽しめる

- 野球以外のスポーツイベントや音楽イベントなどが楽しめる施設として整備
- くつろげる交流スペース（カフェ等）を整備
- 地域イベント（フリーマーケット・マルシェ・屋台村・土産品等）での活用が可能なスタンド・コンコース・芝生広場の整備



参考イメージ ラスベガス・ボールパーク（大型映像装置を活用した屋外シアター）  
【写真提供：Courtesy Las Vegas Aviators/Las Vegas Ballpark】

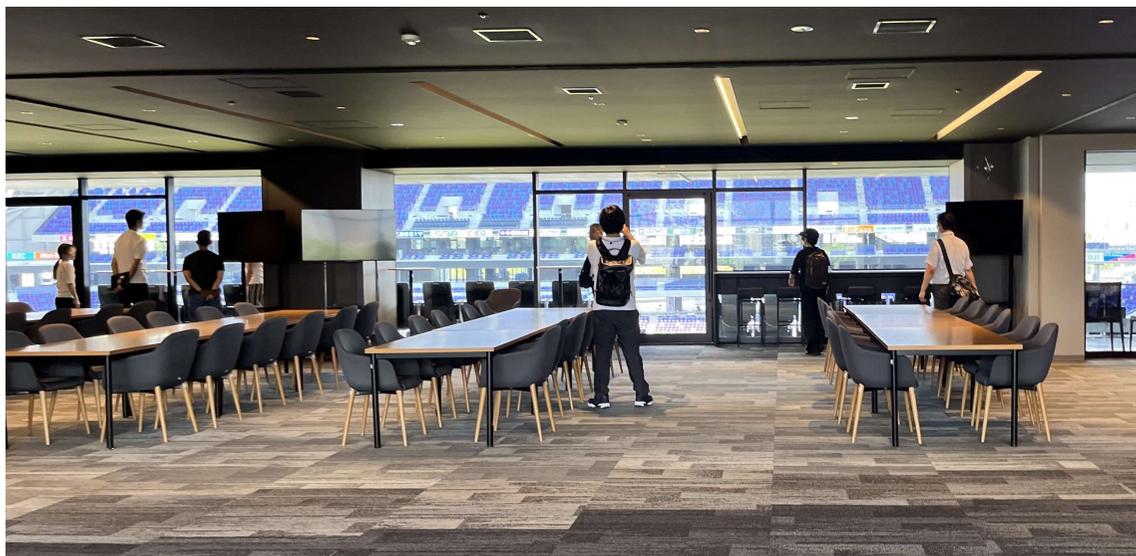
### ④ 災害時にも役立つ

- 災害時の活用も考慮した施設として整備  
逃げ込む場：一時避難場所・備蓄倉庫・自家発電設備など  
復旧活動の場：国からの物資を集積する物資拠点、復旧のための車両基地など

## (4) 普段づかいを楽しめる

### ⑤ ビジネス利用、多様な働き方に役立つ

- 貸会議室、テストマーケティング、セミナーの会場、コワーキングスペースなど、諸室等をビジネス利用できる施設として整備



参考事例 エディオンピースウイング広島  
(月に20件ほどのペースで貸室として利用)  
【受託者撮影】



参考事例：ミクニワールドスタジアム北九州  
(小倉駅近接の立地を活かしたビジネス利用もあり)  
【受託者撮影】

# (5) 青森らしさを楽しめる

## ① 青森の伝統や文化を発信する

- 青森の伝統・文化・風土に根差したデザイン
- ふるさと青森のシンボルとなる施設として整備



参考イメージ：三内丸山遺跡【青森県観光情報サイト】



参考イメージ：ねぶた【青森県観光情報サイト】



参考イメージ：津軽塗【青森県観光情報サイト】



参考イメージ：りんご【青森県観光情報サイト】

## (5) 青森らしさを楽しめる

### ②周辺の自然・景観と調和する

- 青森の自然環境を感じられる要素を、積極的に取り入れた施設として整備

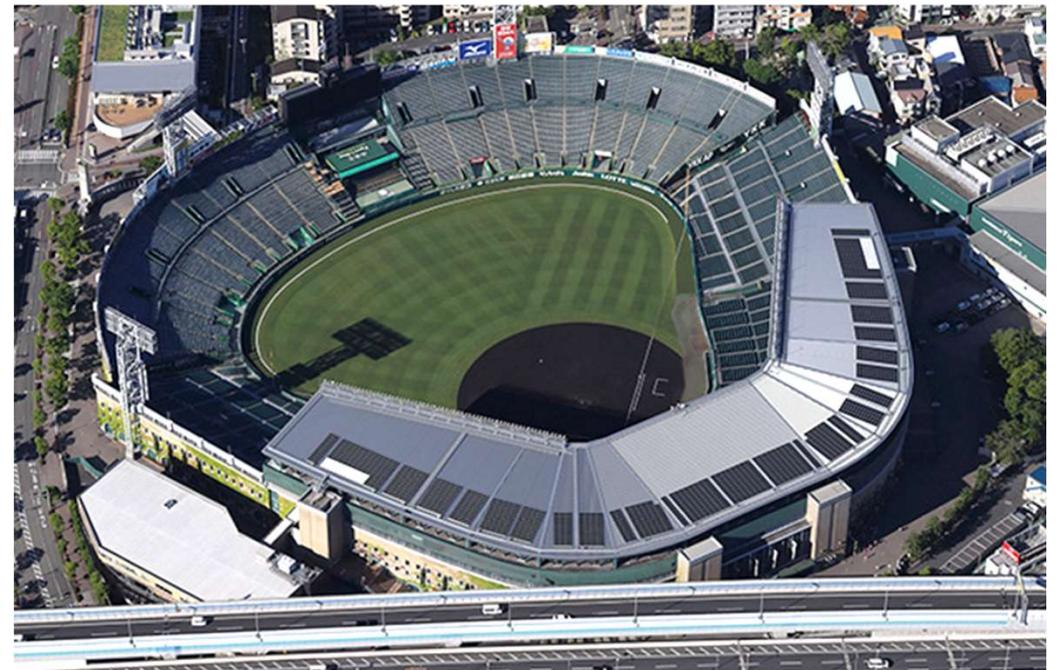


参考イメージ きたぎんボールパーク【受託者撮影】

## (5) 青森らしさを楽しめる

### ③青森の気候や環境を有効活用する

- 再生可能エネルギーの活用（太陽光・風力・雪など）、雨水やリサイクル素材の活用を通じた環境への配慮した施設として整備
- 冬季の降雪・積雪時の維持管理を考慮した施設として整備



参考事例 阪神甲子園球場  
(銀傘への太陽光発電敷設・年間19.3万kWhを発電)  
【写真提供：阪神電気鉄道株式会社】

### 3 持続可能な運営について

#### 賑わいと交流の創出と、効果発現につながる

- 県民のニーズに適ったサービスの提供のため、行政と多様な構成主体との連携により提供していくことを基本
- 賑わいと交流の創出に繋がるよう、より良い県民サービスを提供できる事業手法（指定管理者制度・DBO・PFI等）を検討
- 更に、賑わいと交流の創出の効果をモニタリングし、自主的に高めていくような仕組み(PFS等※右記)の導入を検討

#### <参考事例>

成果連動型民間委託方式（PayForSuccess）は、成果に基づく支払いの仕組みであり、活動内容を評価してから支払いが行われる。国内では医療・福祉分野を中心に導入され始めている。大阪府池田市のフリースクール「スマイルファクトリー」はPFSを活用し、市教育委員会の委託を受けてNPO法人が運営しており、地域社会と連携しながら活動することで多くのこどもたちが学校生活に復帰する支援を行っている。



参考：スマイルファクトリーHP

#### 【PFS（成果連動型民間委託契約方式）】

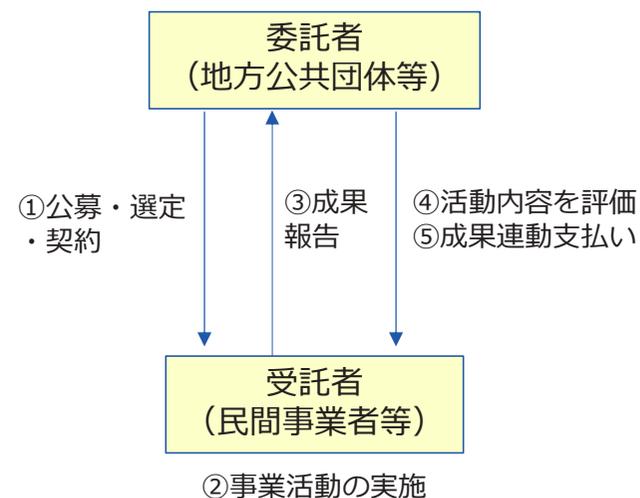


図 PFS事業の仕組みイメージ

## 4 整備場所の考え方

**現県営野球場がある青森市内とし、賑わいや交流の拠点としての効果の最大化が図れる場所とする**

- ✓ 県民/地域の方々が日常的に行きやすい場所
- ✓ 観光客・遠方からの観戦者にとって訪れやすい場所
- ✓ 公共機関でアクセスしやすい場所
- ✓ 周辺の土地利用やまちづくりとの相乗効果が期待される場所
- ✓ 可能な限り早期の建設着手が可能な場所

# 【資料編】ボールパーク整備検討会議設置要綱

(趣旨)

第1条 青森県によるボールパークの整備に係る基本計画策定に当たり、野球場を核とした年間を通じた賑わいや交流の創出に向けて、幅広い見地から外部有識者の助言等を得ることを目的として、ボールパーク整備検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(組織)

第2条 検討会議の委員は、次に掲げる者のうちから、知事が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) スポーツ団体関係者
- (3) 賑わい・まちづくり関係者
- (4) その他知事が必要と認める者

2 委員の任期は、委嘱した日から検討会議による検討が終了した日までとする。

(検討会議)

第3条 検討会議に委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 検討会議は、委員長が招集し、議事を進行する。
- 3 委員長が不在のとき、又は欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(検討事項)

第4条 検討会議は、次に掲げる事項について助言等を行うものとする。

- (1) ボールパークの機能に関する事項
- (2) ボールパークの整備場所に関する事項
- (3) その他必要と認められる事項

(庶務)

第5条 検討会議の庶務は、交通・地域社会部地域交通・連携課において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和6年5月31日から施行する。

# 【資料編】ボールパーク整備検討会議 委員名簿

氏名	役職
沼田 郷（委員長）	青森大学総合経営学部経営学科教授
花田 慎	青森県スポーツ推進審議会会長
齋藤 春香	あおもりアスリートネットワーク代表
袴田 康夫	青森県中学校体育連盟野球専門部部会長
三上 保	青森県高等学校野球連盟副会長
三浦 忠吉	北東北大学野球連盟事務局長
小野 元樹	青森県軟式野球連盟理事長
中村 公一	株式会社クロックアップ代表取締役
久慈 美穂	株式会社and more代表取締役
石山 紗希	株式会社ORANDO PLUS代表取締役
小原 爽子	株式会社日本経済研究所公共デザイン本部上席研究主幹兼インフラ部長
田中 珠紀	青森朝日放送株式会社報道制作局制作部ディレクター
	(敬称略、順不同)

## 【資料編】 検討会議の開催経過

回次	開催年月日	案件
第1回	令和6年8月27日	(1) 事業全体の流れ及び検討会議の進め方等について (2) 野球場を核に年間を通じた賑わいや交流を創出するボールパークのイメージについて (3) 野球場に関する問題点及び課題について
第2回	令和6年11月1日	(1) 前回会議で出された質問への回答について (2) これまでの意見のまとめについて (3) 整備に向けた基本的な考え方(案)について
検討会議ワーキング	令和6年12月3日	コンセプト作成のためのワーキング
第3回	令和7年1月23日	(1) ワーキングの振り返りについて (2) ボールパークに求められる役割・機能の考え方(案)について
第4回	令和7年3月21日	ボールパーク整備検討会議報告書(案)について

# 事業全体の流れのイメージ

資料 2

